

JASE

現代性教育 研究ジャーナル

2014 年
No. 37

2014年4月15日(毎月15日)発行

日本性教育協会

THE JAPANESE
ASSOCIATION
FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL http://www.jase.faje.or.jp 発行人 鈴木 勲 編集人 本橋道昭
© JASE. 2014 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

「関西性教育研修セミナー2013冬」報告 …… 1	もっと知りたい女子の性① …… 10
「東京性教育研修セミナー2014冬」報告 …… 7	今月のブックガイド …… 12
性教育の歴史を尋ねる⑬ …… 9	JASEインフォメーション …… 13

■「関西性教育研修セミナー 2013 冬」報告

Living Together

～池上千寿子が歩み続ける道～

2013年12月21日(土曜日)午後1時30分より、大阪府立大学「I-site なんば」において、「Living Together ～池上千寿子が歩み続ける道～」をテーマに関西性教育研修セミナーが開催された。2011年第20回WAS国際会議でゴールドメダル(金賞)を受賞した池上さんを迎え、HIV/エイズのこれまで、性科学等について、「性の健康/権利」「協働」「教育」をテーマに講演していただいた。

主催：関西性教育研修セミナー実行委員会

はじめに

冒頭、日本性教育協会運営委員の宮原忍氏が、池上さんをユーモアを交え紹介された。

池上さんは東京大学を卒業後、出版社勤務を経て翻訳を中心に執筆活動を始め、1982年にハワイ大学に留学。帰国後、1994年にぶれいす東京を設立しエイズ予防とケアの活動に従事し、2012年まで代表をつとめられてきた。現在は、NPO法人ぶれいす東京顧問・理事である。

今回のセミナーでは、池上さんみずからが、歩み続ける道を語り、その後、大阪市立総合医療センター感染症センター医長の白野倫徳さんとアーティストのプブ・ド・ラ・マドレーヌさんとのゲスト対談

を行った。その後、会場とのディスカッションが行われた。

ここでは、池上さんが語った「Living Together」の道を中心に、その概要を紹介する。



男と女は別ものなのか

人生に目覚めたといったら何ですけれども、LT (Living Together) の基本が10歳のときです。小学校4年生のとき、クラスメートの男の子から、「女が勉強して何になる」と言われました。大変ショックを受けました。男と女って、今の言葉で言えば「LTしていない」ということを突きつけられたわけです。

片や、アメリカのホームドラマなどを見ると、何やら幸せそう。LTっぽい雰囲気、夫婦が少なくとも会話していると感じ、つまり、アメリカの女性に何か学べることがあるのではと、アメリカ女性史を大学で専攻することになりました。日本の女性たちが、あるいは男女がもう少しLT、ともに支え合って生きていくには、何かが欠けている、欠けているものは何かを探すためにアメリカ女性史を勉強したところ、基本は同じだということに気づきました。

どうして男と女は全く別だと言われるのか。結局性なんです。性器が違うでしょう、性器の違いは生き方の違いです、性器の違いは役割の違いです、こうなるわけです。

そのころは、性とか体についての情報が本当になかった。女性の体についての本といったら、妊娠、出産と更年期だけでした。「女は子宮があって、産む性で、受けとめる性で、だから、仕事はできなくて、仕事をしたとしても責任ある地位にはつけないで、子育て、育児、結婚しか道はない」と言われていて、自分の体と性について、どちらかというと非常にマイナスのイメージをもっていました。

ルシエン・ランソンとの出会い

1975年にメキシコで初めて国際婦人年がありました。これは行かなきゃというので、行きました。その後、サンフランシスコに渡って、日系移民の性を研究しました。そこで出会ったのが、『From Woman to Woman』、ルシエン・ランソンが書いた本です。

Q & A形式で、これを読んで、本当にうれしかった。自分の体はこんなにすばらしくできていて、こ

ういうふうにつながっていて、こういうふうに機能しているんだということが初めてわかりました。生理ってこういうことなのね、という基本中の基本から始まって、性器ってこういうふうになっ



ているんだということも……。日本の女性たちにこの情報がないから、伝えなければいけないと思って、日本に持って帰って翻訳しました。邦題は『ランソン先生のからだの本』です。

その後『ランソン先生のからだの本』を読んだ根岸悦子さんという産婦人科のドクターが『ウーマンズ・ボディー』というすごい本を訳したいと思っていました。一緒にやってくれる人を探していたのです。私に会いたいということで連絡がきました。

私もその本を持っていて、いい本だと思っていました。初対面の2人が本をはさんで盛り上がり、コーヒー一杯で4時間も語りあってしまいました。「ぜひやりましょう」ということで、初めての協働が成り立ちました。

ドクターと、ドクターでない人間が組んで性と体の本を訳すという場合、普通は「訳者・池上千寿子、監修・ドクター根岸悦子」です。これって監修者と職人なんです。そういう分担と位置関係です。ところが、彼女はその構図はやめようといいました。この後、根岸悦子、池上千寿子の共訳、もちろん役割分担はあります。翻訳の具体的なことは私がやりました。根岸さんはすごい人で、本を選んでくるんです。いい本ばかり持ってくる。「本が私を呼んでいる」と言う。「書店に入って、見るでしょう。この本が、やって、やって、手にとってと言っている」と言うわけです。それを本当に持ち寄って、相乗効果を発揮できて、2人で30冊翻訳しました。

『ウーマンズ・ボディー』は、膣の中にペニスがインサートされていて、射精があって、精子が泳いでいて、ここら辺で卵を取り合うよ、という図を

初めて出したのです。

性に関する、体の性器にかかわる言葉を訳していくわけですが、私は「恥毛」に引っかかった。“pubic hair”という。恥ずかしいって何です？

日本語では、恥毛に恥骨に恥丘でしょう。これはちょっと嫌だなと思って、相談して、「恥毛」はやめようというので、つくったのが「性毛」です。これが別にベストだとは思っていません。でも、性器のあたりにある毛だから性毛でいいじゃない、体毛と性毛と頭髮で、訳語をそれにしましたのです。なぜか、その後も使われています。

ハワイでエイズに会う

『ウーマンズ・ボディー』を出したときに、これを教科書にして、朝日カルチャーセンターで音読会をやりました。声に出せない人が圧倒的に多かった。セックス、膣、ペニス、マスターベーション、性交、これらの言葉を人前で口に出して読むということに大変抵抗があった女性が多かった。

この本を持って、全国を回って活動しながら、喫茶店に寄っては、やれペニスがどうの、セックスがどうの、マスターベーションがどうの、膣がどうの、性交がどうのと話していたわけです。これは1980年の話です。

私は、人前で公然と性を語るというので「セックス姉ちゃん」と言われました。その後、「コンドームおばさん」と言われるようになります。

翻訳をやっていると物足りなくなっていて、きちんと勉強するにはどうしたらいいのでしょうか、ということをお聞きしました。そこで紹介されたのがミルトン・ダイヤモンド教授です。根岸さんにも、「ハワイ大学にミルトン・ダイヤモンドという人がいるから、行っておいで」とすすめてくれました。

ハワイ大学で出会ったのが「ダイバーシティ（多様性）」です。ダイバーシティとエイズに出会いました。“Pacific Center for Sex and Society”、「性と社会太平洋研究所」と勝手に訳していますが、ハワイのゲイ・アイデンティティ・センターを立ちあげた代表と、そのパートナーと出会いました。ダイヤモンドの研究室の学生だった人です。

ハワイ大学は、アメリカの州立大学で初めてゲイグループをキャンパス内に公認した大学です。ダイヤモンドは、当時トランスセクシュアルと言われていた人たちのカウンセリングをやっていましたので、そういう仲間たちとたくさん出会いました。

ハワイで多様性と同時にエイズに出会いました。

1981年にエイズがアメリカで報告されて、ハワイでは83年に初めての患者さんが出ます。ハワイは第一号の患者さんから診療拒否が一切ありませんでした。街中で起きた差別というのも報告されていません。それはなぜかという、私は82年にハワイ大学に行きましたが、そのころはもうアメリカ本土で大変なことが起きているとみんなで話しているわけです。

ゲイコミュニティなどで、どうも新しい厄介そうな病気は、セックスと血液でうつるらしい、ウイルスが原因らしい、そこら辺まではわかるわけです。セックスと血液で感染する感染症であるならば、診療拒否は意味がない。根拠がない。手を握ったっていいわけです。治療法がなくたってケアはできるはずだ、必要だと。そして、セックスと血液で感染するものならば、アメリカ本土から太平洋を越えてハワイに来るのは時間の問題で、水際作戦なんか不可能です。

来るんだったら準備をしようということで、そのときの合言葉が、「アメリカ本土の二の舞を演じるな」です。つまり、アメリカ本土で起きていることは、差別、偏見、排除、あんなみっともないことを起こすのはよそうというわけです。

そのために、医療の準備と社会の準備の2つの準備を始めました。医療の準備は、一番大きな病院の日系女性の看護師長さんが、「ハワイでは第一号の患者さんが出たときから、開放病棟で受け入れる」と宣言しました。どうしたのかと聞いたら、もちろん勉強です。準備会です。

セックスが絡んだ病気、しかも少数派から始まって、マイナスの出発をしてスティグマが貼りつけられちゃったような病気は、医療だけでは解決できない。差別を起こさないために、排除を起こさないために、社会環境を整えなければだめだというわけです。それで、ハワイではNGOが立ち上がりました。もちろんハワイ大学の先生たちも、行政も参加しま

した。私と同じ年のカナダからきたゲイの開業医の男性が事務局長になり、ケアプログラム、予防啓発、ホットライン、バディ、カウンセリング、エイズ教育などを行いました。ぶれいす東京がやっているプログラムはほとんどありました。

ゲイコミュニティ、多様な専門家、行政、医療などが集まって、医療側と社会側の準備をしたわけです。何でこんなスムーズな協働ができたんだろうということですが、一つの目標に向けて関連セクターが協力し合う、同じ目標に向けて、それぞれが役割分担をし、実践することで相乗効果を生んだのです。この連携の結果、ハワイでは第一号の患者さんからきちんと受け入れて、差別を起こしませんでした。

1985年に、HIV抗体検査が導入されるのですが、ハワイは全米のモデルケースになりました。州のSTIクリニックと民間とが協力して検査を促進しました。今もハワイはニードルエクスチェンジもあるし、迅速な検査、薬物治療などを積極的に行っているために、「HIV／エイズの発見や治療に最適な場所だと、防衛機関や患者は話す」とUNAIDS2008年報告書にあります。

何故、ハワイでできたのか

「だって、ハワイにはダミアンがいるんだからね」。ダミアン神父はベルギーの生まれで、ハワイへ志願して赴任した宗教家です。ハンセンコロニーにみずから飛び込んで、まずブラスバンドをつくり、「さあ、一緒に生きているうちは楽しもうね」ということを実践した人です。そして学校や教会を建てて、ハワイ中で基金を集めました。「モロカイの英雄」と彼は言われます。彼の行動に共感して、ハワイ王朝最後のリリウオカラニ女王は、何とコロニーに行ってしまうわけです。今から120年前ですよ、治療法もないときに女王自身が行ったんです。

ハワイにはダミアンがいるんだから、HIVはまったく問題ない、こういうことになるわけです。ハワイには、50%を超えるエスニックグループも、宗教的グループもないのです。みんなの意見を集約して、それぞれのためには何がいいんだろうということを考えていかなければいけない社会なんです。



1972年にハワイ州は全米で初めて人工妊娠中絶を合法化した州です。中絶は今もアメリカ大統領選挙の大きな政治争点になっています。中絶反対派は、中絶は人殺しだと言って反対しており、人殺しをする人は殺してもいいというので、産婦人科医を襲うくらい強烈です。

ハワイでは、合法化する前に、ダイヤモンド教授たちが中絶手術の知識と態度と実践について州民調査をしました。ハワイ女性のかかなりの部分が、その当時はまだ合法ではなかった中絶を経験していました。しかも、中絶を経験している女性のうちの3割がカトリックです。その人たちは心情としては中絶を絶対認めない人たちです。調査の結果、知識と態度、心情及び実践は一致しないというデータが出たわけです。

中絶の実態については3つのグループに分けられました。1つは、お金持ちで、飛行機に乗って日本に来て中絶をして帰る、周囲に、妊娠して中絶したということは知られない。「ちょっと日本に観光に行ってきます」で済む。そんなお金はないという人は、ハワイの中で闇中絶をします。結構高いお金を払います。闇の手術ですから、感染症など危険を伴います。そのお金もない、産めませんという人は、自分で針金のコートハンガーを子宮に膣から突っ込む命懸けの行為をやります。

この結果を突きつけられた州議会の議長ヤノ氏は有名な日系のクリスチャンでした。中絶反対派は、あの人が州議会の議長だから、フィフティ・フィフティになっても、絶対中絶なんか反対するに決まっているから大丈夫だ、とたかをくくっていた。しかしヤノ氏は、州民のための政策決定責任者として、個人的心情を排し、平等かつ公正な福祉政策の実現

を目指すことを優先する、というので中絶自由化に1票を投じたのです。これは州民がびっくりしました。こうしてハワイは、全米で初めて人工妊娠中絶を合法化し、貧困層への経済的支援を提供しました。お金がなくても受けられ、安全な手術は平等に受けられる、これはすごいことです。

私がいた1980年代、ハワイでは、妊娠して子育て中の女子高校生が卒業できる特別クラスというのもありました。妊娠したら追い出すというのではないんです。強姦救援センターでは、8カ国語の無料通訳が準備されていました。観光客が強姦されても無料サービスを受けることができます。州民だけ、税金を払っている人だけがサービスの対象です、なんていうことは言わない。

ハワイは性についてオープンだし、多数派がいなくて、いかにすればより公平、公正かということに配慮するというのが伝統としてあります。それと、ハンセンから非常に多くを学んでいます。

ピルとコンドーム

当時、ハワイにいて、「あなたは避妊は何でやっているか」と言うから、「コンドームだ」と言ったら、気の毒がられました。「まあ、かわいそうに、日本の女はおくれている。自分の体を、ホルモンを飲むことによって自分でコントロールをするのが進んだ女だ。コンドームは男に頼るでしょう。男に頼るなんて、だめじゃないの。気の毒ね、日本の女はまだだ」と言われて、私は大変に怒りました。

避妊は2人でやるべきだと考えもしていない。いつセックスがあるかどうかわかりもしないのに、女性がピルだけ飲んで体を準備して、男の人は避妊の避の字も心配しなくて済むというのはおかしい。男の人から性の健康のことを発想するチャンスを奪っているのです。

その後、HIVの波が襲ってきました。コンドームを手放していなかった日本の男女カップルは、かなりここで救われているはずです。関係の中で起こることについて、私は、自己責任とか、自己決定とか決めつけられません。自分だけで決められないことがあるでしょう。2人で関係のなかで決めていったほうが良いということがあります。

「安心できるともっと感じる」

日本に帰ってまいりまして、日本のエイズNGO活動を始めました。2014年で20周年です。

今日、私は2つの言葉を皆さんとシェアしたいと思います。

1つは、「安心できるともっと感じる」ということです。それを英語で言うと、“Sex feels better when you feel safe about sex”です。

1995年にぶれいす東京のゲイグループが、新宿2丁目のゲイコミュニティで配るためのゲイコミュニティによるゲイコミュニティのためのゲイコミュニティの冊子をつくらうということになりました。当時、例えば東京都にエイズの啓発資材をつくるから、予算を下さい、助成金を下さい、と言ってもみんな断られました。なぜなら、対象が一部の人だからです。「ゲイですか。圧倒的に多数の人はゲイじゃありませんので」、こうなるわけです。

特に行政系の税金は、払ってくれている人になるべく公平に使わないと文句がくる、そういう言い方です。新宿2丁目だから、新宿といったら、「新宿2丁目に来る人は新宿区民とは限りません」と言われたんです。それはそうだけど、だから、何なのと（笑）。

どこからもお金がこないの、イギリスのフレディ・マーキュリー基金に申請して、日本でゲイのためのゲイの啓発冊子をつくると言ったら、資金を提供してくれました。うれしかったですね。

ベニスにコンドームをかぶせて射精したときをちゃんと実写したんです。「安心できるともっと感じる」というコピーを見た途端、私、目からうろこが……。なぜかといったら、安心できるともっと感じるって、みんなそうでしょう、女の人がよく言っていたことですよ。怖い、妊娠したら困ると思ったら、オーガズムのふりはできるけど、とってもじゃないけど……。

新たに『SEXUAL HEALTH BOOK ②』という新たな冊子を出しますが、トップページのコピーに「安心できるともっと感じる」とあります。20年使っていますが全然色あせない。

ぜひ、「安心できるともっと感じる」、コピーライトはありませんので、どんどん使ってください。こ

のコピーを作ったゲイの人に「使わせてね。うちのぶれいすではこれを全部使うからね」と言ったら、「どうぞ、どうぞ」と言っていただきましたので。

“Living Together”

もう一つは、“Living Together”です。

2006年に第20回日本エイズ学会の会長をやりました。そのときのスローガンを“Living Together”にしたのです。日本でHIVの予防啓発活動をやり始めたときに、とってもまずいと思ったことがあります。これも言葉の問題です。

ぶれいす東京は、ある時、陽性女性2人に登場してもらって、私が司会をして、日本で初めてHIV陽性女性のシンポジウムを開きました。そのときに、参加者で「私はHIVのことをたくさん勉強して、大学でもやっています。ぜひNGO活動もやりたいです」と言った人がパッと手を挙げて、「あの、HIV陽性の人と共生するにはどうしたらいいでしょうか」、これが質問です。

「あ、ちょっと、それは困る。それじゃだめです」というふうに言いました。でも、教科書はこうなんです。小学校の教科書をチェックしてくれと言うので、読みました。5年生かな、エイズは「うつりませんリスト」がありました。御飯食べて大丈夫、お風呂大丈夫、そして血液の話で感染経路は終わりです。隣のページに囲みで、「エイズの人と仲よくしよう」と書いてあるんです。この発想は、要するに差別はいけないよと言ってさえいればいいでしょうみたいな、仲よくしようと言えばすむ、これって、私が10歳のときに感じた、男と女はLiving Togetherじゃないね、ということとつながるんです。

教科書を読んでください。男と女は第二次成長で違うふうに発達します。女の方は母親の準備をします。男の方は精子をつくります。精子をつくったら、性欲のコントロールが大事です。男の人と女の方は、性意識と性の構造が違いますと書いてあります。教科書に、男の人と女の方は性の意識や行動が違いますけれども、違いをよく理解して、仲よくしましょう、と書いてあります。

私はこれはとっても難しいと思います。違う、違うと言われたら、仲よくできない。違いを理解して



仲よくしよう、なんていう高度なことは私はできない。エイズの人と仲よくしましょう、というお題目と同じです。

先生方の研修会に行ったときに、「HIVの人と共生しよう」、「ゲイの人と共生しよう」と書いてありました。これはおかしい、共生というのが何やら難しい目標で、それに向けて努力しよう、というわけでしょう。何かおかしくないですか。

たとえば、「実は私、HIVなんです」と言ったときに、きのうとは違って、きょうから私と共生しなければいけない、そういう対象になるわけです。

私は、「共生しよう」という言葉は絶対使いたくないと思っていたんです。だって、もう、共にいるじゃないですか。残念ながら、うまい日本語が浮かばなくて、“Living Together”でいこうと。それで、「LT宣言」というのを学会のスローガンにしました。

2014年1月には、『SEXUAL HEALTH BOOK②』をつくります。2月11日に東京でお披露目セミナーをやります。ぜひ参加してください。



休憩をはさんで、HIV診療に携わる傍ら検査会場での検査告知、陽性者支援プログラム、薬物依存の実態調査などにも取り組んでいる大阪市総合医療センター感染症センター医長の白野倫徳さんと対談が行われた。その後、続いてアーティストで、1993年から13年間セックスワークに従事、同時に関西地域のHIV/エイズやセックスワーク、セクシュアルマイノリティに関するコミュニティ・ソーシャルワークに携わってきたブブ・ド・ラ・マドレーヌさんとの対談、そして最後に2人の対談ゲストをまじえ参加者とのディスカッションで幕を閉じた。

■「東京性教育研修セミナー 2014 冬」報告

HIV と性の教育セミナー

いつでも、どこでも、だれにでもできる性の教育

～若者に伝えたいメッセージ 伝え方の工夫～

HIV と性の教育セミナーが、2月11日（火・祝日）日本性教育協会セミナー室で開催され、池上千寿子さんの講演とグループワークが行われた。プログラムは、第1部が講演と『SEXUAL HEALTH BOOK ②』の紹介、第2部が「マイコピーを作ってみよう」。以下、その概要を紹介する。

主催：特定非営利活動法人ぶれいす東京 協賛：日本性教育協会

性の教育の基本

午後1時10分からの第1部、「いつでも、どこでも、だれにでもできる性の教育とは～若者に必要な基本的なメッセージはなにか～」と題した池上千寿子さんの講演は、性教育の現状分析から始まった。

池上さんは、「性の教育を受けなかったために、自分の身体のすばらしいということに気がつくのに30年かかりました。そんな遠回りを若い人たちにはしてほしくない」といい、まず性の教育の現状について話された。性教育のハードルが高いといわれるが、その理由を整理すると、以下のようなになるという。

①性教育不要論

根拠は、性別二元論で、男と女は違うので学ぶ必要はない。

②性教育有害論

「寝た子を起こす」という言葉で表現される。「性教育」と言わず「性交教育」「性器教育」という。「性交教育」はポルノ、「性器教育」は猥褻であるという。

③性教育が必要なのは分かるけど論

「必要ですけど……」派は、「分かっているけど自分にはできない」というグループ。「性について語れない」「体について語れない」「何を話したらよいかわからない」といい、性の教育を難しく考えてしまう人たちである。



池上さんは、以上のような性の教育に反対する人たちや、必要だと思うが私にはできない、という根深い否定的な現状はあるが、人は、毎日、常に性に関する情報を受け取っており、「私も、あなたも、あなたも、みな性的な存在であり、性を抜きにしては存在しない」という。

つまり、性的な存在として、「自分らしく生きる」「自分を大切にしたい」と思うことが性の教育の目的と考えれば、決して難しくはないというのである。

「自分を大切にすること」は、「相手を大切にすること」につながる、それが性の教育の基本だということ。

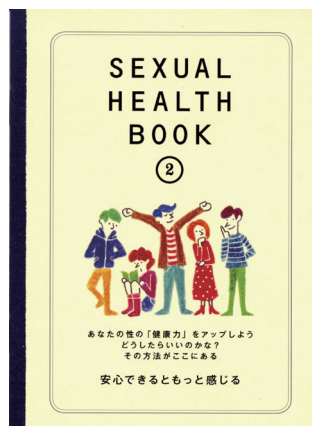
その性の教育について、次のようなキーワードをあげられた。

- からだといのち
- セクシュアルヘルス（性の健康）と性の多様性
- 性の健康は、関係性の中で生じる
- 人間は関係の中でみんな生きている

詳しくは、『SEXUAL HEALTH BOOK ②』に書かれているのでぜひ読んで欲しいと締めくくられた。

『SEXUAL HEALTH BOOK ②』

『SEXUAL HEALTH BOOK ②』について、池上さんは、ぶれいす東京のニューズレター No.29 (2013 年 11 月号) で次のように述べている。



この 10 年で LGBT、STI/HIV、デート DV などテーマ別の冊子はいくつもできましたが、どのテーマにしても、他人事ではなく自分のこととして考えるヒントになり、しかも 1 冊にまとまっている冊子はありません。「無

いなら、作ろう」、これはぶれいす東京の合言葉のひとつ、ゲイ向け、女性向け、若者向けの Sexual Health 系冊子シリーズはこの合言葉から生まれました。『SEXUAL HEALTH BOOK ②』は学校や家庭、地域で使える新教材です。

池上さんの講演後、『SEXUAL HEALTH BOOK ②』の開発を担当した PEP (Peer Empowerment Program) の活動と理念、新冊子の内容が紹介された。PEP は、大人の女性を対象とした予防啓発プログラムを行っている部門で、『SEXUAL HEALTH BOOK ②』は、ここのメンバーが中心になって制作したものであるという。

『SEXUAL HEALTH BOOK ②』のキーワードは、「セクシュアルヘルス」、「ダイバーシティ (多様性)」、「個人の気づき」。

4 ページ目の「SEXUAL HEALTH 力アップの 7 つのポイント」には、

- ①愛は束縛でない
- ②愛では守ってくれない
- ③安全日はない
- ④外だしはヤバイ
- ⑤ピルでは性感染症は防げない



「グループワーク・マイコピーを作ってみよう」の発表

⑥コンドームはヘルスケア・アイテム

⑦おまかせより自分から

と 7 つのポイントがあげられている。

ちなみに①には、「愛している相手は自分もの、なんて迷惑なお話、相手を自分の思いどおりにしたいのは愛じゃなくエゴ」、⑥には、「避妊や性感染症予防になるコンドームは、マスクと同じ健康管理グッズ、自分と相手を守るエチケットでもある」という解説がある。

「高校生に読んでほしいと思って作ったのですが、大人の人たちにも読んでいただける内容になったと自負している」と PEP の担当者はいう。

休憩を挟んで、第 2 部グループワーク。

テーマは、「いつでも、どこでも、だれにでもできる性の教育、若者に伝えたいメッセージ」をつくるというもの、ぶれいす東京の冊子に使われている「安心できるともっと感じる」的なコピーづくりである。

4 グループに分かれ、つくったコピーを発表し、それぞれのグループで、人気投票を行った。人気の理由、また人気のなかったコピーについてもディスカッションで振り返り、最後にグループ代表の報告でセミナーは終了した。

●『SEXUAL HEALTH BOOK ②』の購入方法

ぶれいす東京のホームページ (<http://www.ptokyo.com/publications/booklets.php>) より「印刷物等申込票」をダウンロードして必要事項を記入の上、メールまたは FAX でお申し込みください。

頒価 100 円 (税込)。

TEL : 03-3361-8964 (月～土 12～19 時)

FAX : 03-3361-8835

メールアドレス : office @ ptokyo.com

性教育の歴史を尋ねる

戦後・純潔教育編

茂木輝順

第13回 学校保健教育改革における性教育・純潔教育(その1)

もてぎ てるのり
女子栄養大学大学院栄養学
研究科保健学専攻博士後期
課程修了、博士(保健学)

文部省純潔教育委員会(第4回及び第8～10回参照)が純潔教育の普及をすすめた一方で、戦後の学校教育改革においては、保健教育⁽¹⁾の中に性教育が位置づけられていきます。今回から、この経緯をみていきますが、結論を先に述べると、性教育・純潔教育については、文部省内でも純潔教育委員会をはじめとした社会教育局の施策と体育局による施策は別個に展開され、両者がコラボすることはほとんどなかったと考えられます。

1945年9月5日、文部省に体育局が(再)設置され⁽²⁾、保健教育については体育局保健課を中心に改革がすすめられていきます。また、1946年3月に、日本の戦後教育改革に助言を与えるため、アメリカ教育使節団(総勢27名)が来日し、『アメリカ教育使節団報告書』(1946年3月30日)を残しています。この報告書は、性教育・純潔教育について直接的に触れているわけではありませんが、「日本の教育の目的および内容」の章の「保健教育」の項では、高い出産率と死亡率の低下によって、今後深刻になりうる日本の人口過密問題を指摘し、日本人の科学者による委員会がこの問題の研究を始めることを勧告しています。また、「体育」の項では、新しい教師用参考書の起草を教師たちによる委員会が着手するべきと助言しており、これが有力な契機となり⁽³⁾、1947年6月に『学校体育指導要綱』が刊行されます。前々回に触れたように、これには高等学校に性教育が位置づけられています。体育の目標の「社会的性格の育成」の一つに「性に対する正しい理解」が掲げられ、また、小学校低学年・小学校高学年・中学校・高等学校・大学と5段階別に、それぞれ運動と衛生の教材が示されていますが、高等学校の衛生の教材として示された七つは、衣食住の衛生・姿勢・身体の測定・病気の予防・社会生活の衛生・精神衛生・性教育です。ここでは性教育の具体的な内容は示されていませんが、戦後の保健教育改革の中心的人物であった岩原拓による『学校体育指導要綱解説八衛生篇』(目黒書店1947年p.79)では、指導目標・指導

事項・指導上の注意事項が次のとおり述べられています。

一、指導目標 性に関する道徳並びに衛生等の初歩的事項について指導し、正しい理解を与えることを目標とする。

二、指導事項 (1) 性道徳 (2) 性病とその予防

三、指導上の注意事項 (1) 教材に対し、正しい理解を与える。(2) 過度に興味を惹起せず、諸種の問題に対し異常に好奇心を引起さざるよう注意して指導する。

このように『要綱』では、性教育を含めて衛生(保健教育)の教材が示されたものの、岩原が「現在の健康教育は、体育科の一翼としての衛生教育として、行われているが、それは事実上きわめて不徹底であつて、換言すれば一二の地方の学校は別として、大多数の地方の学校では、形式的実行に過ぎぬというのが、その実情であろう」⁽⁴⁾と指摘したように、学校での保健教育の実施は低調であったとみられます。

このような状況に対して、文部省は、中学校について、1949年5月に『新制中学校の教科と時間数』の改正について、「体育科を保健体育科と改め」、同年8月に「計画的な健康教育を、三年間のうちいずれかの学年において七〇時間実施すること」と通達します。また、高等学校については、同年6月の「高等学校教科課程の一部改正」で、「体育を改めて保健体育の教科を設け、それに属する科目として保健及び体育の二科目を分け、(中略)保健に必ず二単位をあてること」と通達します。加えて、同年11月には、中学校と高等学校の保健の教科書検定基準が定められ、保健教育の改革がさらにすすんでいきました。(以下、次回)

【注】

- (1) 戦後教育改革において制度化された保健科の成立過程については、七木田文彦「健康教育教科「保健科」成立の政策形成—均質的健康空間の生成」学術出版会2010年、が詳細な分析を行っており、本稿の参考としました。
- (2) 文部省の体育局は1941年に設置され、1945年7月に廃止された経緯があるので、厳密には再設置です。
- (3) 坂入明「戦後初期の学校体育改革について—『学校体育指導要綱』の成立過程を中心として」『一橋論叢』82巻6号1979年p.655
- (4) 岩原拓「学校における健康教育の新動向」『学校体育』2巻2号1949年p.4

新年度になりました。異動や新しい出会いに落ち着かない日々かもしれません。産婦人科の診察室も、新しいスタッフを迎えて始動です。

思春期は、人生で例えれば春にも似て心も体も不安定。月経がまだ来ない、自分のからだはおかしくないか、将来パートナーができるのだろうか……など、これでいいのだろうかということが、これでもかこれでもかとやってきます。たぶん……大丈夫だよ……と尝试してみても、あまり根拠がない。来年には落ち着くことも成長・発達には個人差がたくさん。ときには結論付けずにゆっくり待つことも大事です。

* *

私個人としては「性教育」という言葉を使わなくなって数年経ちました。「性の学び」「性の学習」などと置き換えています。大人が教えるというスタンスから共に学ぶという姿勢。あるいは、私もかかわっている「誕生学」という新しいプログラムは誰もが学ぶ姿勢を共有します。誰もが「生まれた」という事実と向き合うことから始めることで、関係ない人をつくらないシステムで、学校でも徐々に取り入れられています。大人が自分の性について語れないのに、そして自分たちは性を楽しんでいないのに、子どもたちに教えるというのはあまりに上から目線ではないか、そんな思いがあります。

日常的には、外来や分娩、手術など産婦人科一般診療をしています。私の専門は、人口問題・家族計画・セクシュアルヘルスです。地道な外来の片隅には、個人のものと社会のものとも言える問題が見え隠れします。一人一人の健康が社会の健康をつくります。そして社会の健康は一人一人の健康にも影響を及ぼします。

WAS (World Association for sexual health: 世界性の健康学会) が2010年に9月4日を「性の健康デー」と制定しました。それを受けて日本性教育協会から毎年欠かさず後援をいただき、「性の健康デー記

念イベント」を開催してきました。健康の概念のなかで、「性の健康」は、例えば「食の健康」や「健康美」などと比べると格段に認知されていないのではないのでしょうか。医療のなかでも、内科疾患を抱えた方の性、術後の性など、あるいは性に起因する精神的問題があっても、性についての診療が十分に含まれていないように思われます。

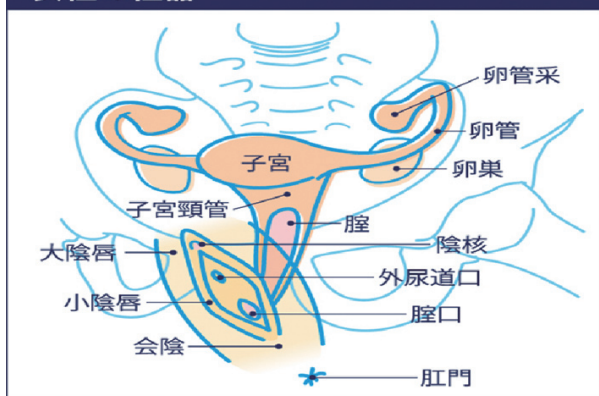
サブタイトルを、「もっと知りたい」としましたが、これは男性から見た女性の性ではなくて、女性として女性の性とは、人生とはということをもっとおおらかに、自分の目を見て、頭で考えて、体で知るということを勧めたいという思いで付けました。

* *

女性の「からだ」は、大事なところが目につかないようになっていて、多くの女性は無意識のうちに自分のからだを隠すことを覚えます。それは自分自身からも隠すことになり、ついにはなかったことになっていたり、将来何が起こるか考えないようにしていたりします。その結果、「妊娠しないと思っていた」「彼に嫌われないセックスってどうしたらいいの?」「自分が更年期になるなんて思わなかった」というような、自分で人生の選択をすることを回避した信じがたい大人の女性ができ上がります。

女性の体は神秘である、そういう考え方もいいでしょう。誰の体も神秘的です。しかし、神秘のベールで覆い隠している間に、女性の体は月経、性交、妊娠・出産、更年期と本人の預かり知らないところで変化して行きます。その変化を受け入れて対応していくには、体の知識も、その前の予備知識も、そして時には法律や文化に影響されることも知っていなければなりません。女性差別撤廃条約が締結されようと、雇用機会均等法があろうと、知らなければ妊娠したら退職するものだという「文化」が残っている職場では産休も育休も、パートナーの育休も存在しないことになってしまいます。

女性の性器



このごろつくづく思うのです。性は自分らしく楽しむものであって、それは自分から求めていいものなのだ。一人遊びであろうと、パートナーとであろうと、特に大人が性的に成熟した人なのだとしたら、誰にとやかく言われるまでもなく、灰になるまで性を謳歌したらいいのです。大人が性を楽しみ自分のものとしてできていたら、大人はそれを子どもたちに伝えればいい。しかし、時代の移り変わりがそれを難しくしています。

※ ※

アメリカのイヴ・エンスラーによって構成されたVM「ヴァギナ・モノログ tokyo2014」が4月4日に日本で公演されました。出演者は木内みどり、中川安奈、北原みのり、打越さく良さんら。「ヴァギナ」は女性器、膣を指し、「モノログズ」は独り言、つまり膣の一人語りともいべきこの芝居は、200人以上の女性にインタビューして構成されています。

日本での初演は2004年で、2005年、2006年、2009年と様々な演出家の手が掛かっています。私は2006年に宮本亜門演出、内田春菊・東ちづる・野沢直子主演での上演を観ました。膣の自立を果たすような画期的な明るさに酔いしれ、いつしか会場の聴衆も促されるままに「おまんこ！」と叫んでいました。そう、女性の性器には気軽に呼べる愛称がないのです。

妊婦健診の超音波検査では、多くの妊婦さんが胎児の性別を知りたいがります。その時に発せられる言葉が象徴的です。

「ついていますか？」と。「何がですか？」とあえて聞き返すことがあります。「おちんちんがついていま

すか？」という意味なんですね。

女の子ですよ、と言うと、「ついていないんですね」と言われます。「いいえ、女の子型がついています。木の葉型のわれめちゃんですよ」と伝えます。付いているのが男性、付いていないのが女性、ではありません。

このことは、残念ながら多くの医師や助産師が無造作に伝えるペニス信仰とも言うべき最初のジェンダーバイアスだと思います。

※ ※

女性は陰唇があり膣がある、月経の血が通るところである、そして性交のときに男性の陰茎、ペニスと「接触」するところであり、出産のときには産道となります。あえて接触と書いたのは、ともすると膣は、受け入れる、とか突き通される、犯される、という受け身になりやすいのですが、生殖の成り立ちとして、魚などは排卵した卵にオスが精子を撒く、などという方法もあり、それをより確実にするために生殖器が凹凸になっているだけで、何も体をえぐられるわけではないのですから、トポロジーとしてのこぼこに過ぎないと考えてみたらもう少し気が楽になるのではないのでしょうか。

くぼみに凸部を当てるだけのことだと。そして自分のからだなのだから、まずは見てみよう、触れてみようと思うのです。性教育の専門家である助産師や養護教諭に膣に指を入れて子宮の出口の状態を観たり、頸管粘液の状態を調べる「自然家族計画法」について話すと、質問が出るどころか固まってしまう方が多いようです。性交したことのない専門家ももちろんいるのはわかりますが、少なくとも性交経験のある大人の専門家が自分のからだを探求しないで、子どもたちの前で性を語るのはやめて欲しいと思います。

大人の自分にできないことを子どもに強要することはできません。自分で知り尽くしたヴァギナというくぼみにペニスを寄り添わせる。なんて素敵な愛の営みでしょうか。

ちなみに、陰核・クリトリスも女性の大事な体の一部です。クリトリスの健康についてもいつかお話ししましょう。

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

新たな恋愛論

もしジェンダーというものが社会や人々の心を揺るぎなく支配していたとしたら、恋愛論などというものは必要がないだろう。なぜなら、慣習と規範の導くとおりに行動してさえいれば、男と女の間に齟齬が生じるはずがないのだから。そもそも男女のルールに綻びが見えはじめたからこそ、ジェンダーという概念が発見されたわけだし、恋愛論というようなマニュアルが求められるようになったともいえる。

1980年代以降、性愛にまつわる本はたくさん書かれ、多くの読者を獲得してきた。近年では雨宮まみ『女子をこじらせて』や、AV監督の二村ヒトシ『すべてはモテるためである』が注目を集め、「モテ」はただの色恋の問題ではなく、「自意識」や「承認」ともからんだ新しい概念として時代のキーワードになっている。

ここで紹介する大泉りか『もっとモテたいあなたに』も好調な売れ行きだという。著者は女性向けのポルノ小説やセックスにまつわるコラムなどを書いてきた作家。本書では自身の経験もふまえて、女性とどう接していいのかわからなくなっている男たちに「女はこんな男に惚れる」を伝授している。

大泉は、「女の恋愛は、『恋』という衝動的感情と、人生を共に送るパートナーとしての資質を考えての『条件』、そこに、自分ではどうすることもできない『コンプレックス』が絡まって成立して」といとし、その3つの軸を交差させることで、男女の機微をつまびらかにしてみせる。鋭い指摘も随所ににちりばめられていて、「セクハラをしてくるのは、実は『昔、モテていた人』や『今、モテている人』が圧倒的に多い」……、「もちろん、セックス自体が大好きな女性も多いますが、だいたいの女性はセックスそのものの行為ではなく、『男性に求められること』が好きだっ



もっとモテたい あなたに

大泉りか 著
文庫ざんが堂
720 円

たりします」……等々、膝を打つようなフレーズが満載だ。

もちろん、大泉の恋愛観もまた彼女の個人的な嗜好が反映されたものであり、そのすべてに共感することには意味はないが、この本が市場で受けているとしたら、それはここに時代の欲望が映し出されているからだろう。恋愛論はまさにその時代時代のジェンダー状況の写し鏡なのである。

本書の特徴は、90年代の恋愛マニュアルなどに比べるとよくわかる。まず、女と男の描き方が画一的ではなく、こんな女の場合にはこうだとか、こういう男ならこのように対応すべし……というようにそれぞれの性別内部での多様性が確保されている点。「(内気な)彼女を初めてホテルに誘う場合には、『今日は、終電逃しても大丈夫?』『明日って予定ある? 今日はこのまま泊まって、明日、〇〇に行かない?』などと彼女がイエスかノーだけで応えられるように話をすること」……というふうに、それぞれの傾向に合わせた対策と、身の丈に合った処方箋を提供してくれているのが、いまどきの若者に有効なのかもしれない。

大泉の書いていることが示しているのは、つまるところ、旧式のジェンダーによる束縛はさらに弱まっていて、女性の欲望はもはや男によって定義はされないということ。そして、多様ではあるが階層的な状況が作られつつあるという世知辛い現実だ。男女の違いはあるにはあるが、外見や能力など生得的な資源や、成長とともに獲得した性格や地位などによって、行動様式や趣味嗜好は異なり、それは性別に還元できないほどの格差になっている。そういった実態の延長線上でしか恋愛論は可能ではない。

結果として、ジェンダーから相対的に解放されても、男も女もさほど幸せを感じていないという皮肉な事態を、本書は如実に反映している。

(作家 伏見憲明)

5/25 (日)

10:30~15:30

第12回 お母さんと子どもの元気セミナー 「おちんちん」はどうなっているの？ 予防接種はなぜ必要なのか

【内 容】

母親からの相談の多い「おちんちんについて」と、めまぐるしく変わる「予防接種」がテーマの2つの講演会。

午前：「おちんちん」はどうなっているの？

講師：岩室紳也（厚木市立病院泌尿器科医師）

午後：予防接種はなぜ必要なのか

講師：中野貴司（川崎医科大学附属川崎病院小児科教授）

【会 場】 平和と労働センター・全労連会館 2階大ホール
（東京都文京区湯島）

【主催・問い合わせ等】

参加費／10,000円＋税、午前のみ・午後のみは、5,000円＋税。

定 員／100名（定員を超える申込みの場合は1日受講者優先）。

受講資格／保健師、助産師、看護師、養護教諭、看護教諭、教職員、
母子保健推進員、および、上記以外で母子保健にかかわっている指導者（専門職）

問合せ先／（社）日本家族計画協会 研修課

〒162-0843 東京都新宿区市谷町1-10 保健会館新館

TEL 03-3269-4785 FAX 03-3267-2658 <http://www.jfpa.or.jp>

6/28 (土)

9:00~17:50

日本「性とこころ」 関連問題学会 第6回学術研究大会

【テーマ】「暴走する性・彷徨う愛」

【内 容】講演『「性とこころ」6年目の光と陰』深間内文彦（榎本クリニック）、『性犯罪加害者家族』斉藤章佳（御徒町榎本クリニック）、『家族における性の問題—愛が暴力か』信田さよ子（原宿カウンセリングセンター）、『性的トラウマと『故意に自分の健康を害する』症候群』松本俊彦（国立精神・神経医療研究センター）、ほか。

【会 場】 ホテルメトロポリタン
（東京都豊島区西池袋1-6-1）

【主催・問い合わせ等】

主 催／日本「性とこころ」関連問題学会

参加費／一般：事前3,000円、当日4,000円。学生：事前1,000円、
当日2,000円。

問合せ先／〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-2-5

医療法人社団榎本 榎本クリニック 日本「性とこころ」関連問題学会
第6回学術研究大会事務局（担当：小山）

TEL 03-3982-5345 FAX 03-3982-6089

E-mail sei-kokoro1@enmoto-clinic.jp

▶▶ 6月22日（日）13:00~16:30 ◀◀

平成26年度 第3回ピアカウンセリング入門セミナー

【内 容】 ①アイスブレイク、②ピアとは、ピアカウンセリングとは、③ピアカウンセリング8つの誓約、④ピアカウンセリングのスキル、⑤ピアカウンセリング体験、⑥全体振り返り

【講師】 高村寿子（自治医科大学名誉教授／日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会代表）

渡辺純一（井之頭病院教育担当 CNS 科長／日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会理事）

【会 場】 保健会館新館 多目的ホール
（東京都新宿区市谷町1-10）

【主催・問い合わせ等】

参加費／5,000円＋税 定 員／50名。

受講資格／ピアカウンセリングに興味のある保健師、助産師、看護師、養護教諭、看護教諭、教職員等（その他の職種の方の参加希望者は、要事前問い合わせ）

問合せ先／（社）日本家族計画協会 研修課

〒162-0843 東京都新宿区市谷町1-10 保健会館新館

TEL 03-3269-4785 FAX 03-3267-2658

7/19 (土)

13:00~17:00

第106回 「性を語る会」シンポジウム 障害者権利条約批准（2014.1.20） を記念して

すべての人が住みやすい社会をめざして！
～社会的弱者のために闘った女性たちの話を聴く～

【パネリスト】

杉浦ひとみ（弁護士） 名児耶匠（知的障害者）

（選挙権を取り戻す裁判で勝訴）

上川あや（世田谷区区議、MtF）

（性的マイノリティであることをカミングアウトして2003年初当選）

【会 場】 アーニホール

（東京都世田谷区用賀3-5-6）

【問い合わせ等】

参加費／一般1,500円 会員1,000円 小学生～高校生500円

問合せ先／「性を語る会」事務局（担当：平）

TEL 03-3708-7326 FAX 03-3708-7324

E-mail taira@ahni.co.jp

「若者の性」白書

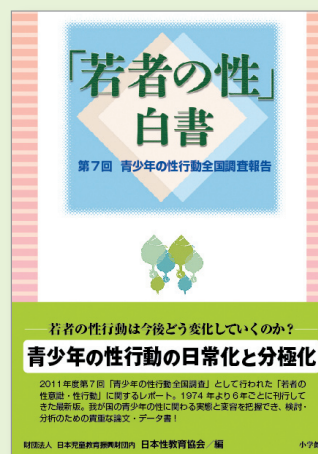
好評
発売中!!

第7回 青少年の性行動全国調査報告

2011 年度第7回「青少年の性行動全国調査」として行われた「若者の性意識・性行動」に関するレポート。

◆主な内容◆

- 序 章 第7回「青少年の性行動全国調査」の概要
- 第1章 青少年の性行動の低年齢化・分極化と性に対する新たな態度
- 第2章 欲望の時代からリスクの時代へ
—性の自己決定をめぐるパラドクス—
- 第3章 青少年の家庭環境と性行動
—家族危機は青少年の性行動を促進するのか—
- 第4章 消極化する高校生・大学生の性行動と結婚意識
- 第5章 青少年にみるカップル関係のイニシアチブと規範意識
- 第6章 高校生・大学生の避妊に関する意識と行動
—避妊行動の分化に着目して—
- 第7章 現代日本の若者の性的被害と恋人からの暴力
- 第8章 自慰経験による女子学生の分化
- 第9章 性情報源として学校の果たす役割
—性知識の伝達という観点から—
- 付表Ⅰ 「青少年の性に関する調査」調査票
- 付表Ⅱ 基礎集計表（学校種別・男女別）



編／財団法人日本児童教育振興財団内
日本性教育協会
発行／小学館

本体2,200円＋税 ● A5判256ページ
全国の書店にてご購入できます！

JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約5万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

【閲覧】必ず事前に電話で予約が必要です（tel 03-6801-9307）。貸出業務は行っておりません。

【開室日・時間】月～金曜日 10：30～17：30

【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始 ※その他、会議等で臨時に休室することがあります。

【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず1枚10円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。

<http://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html>

平日の利用方法

日曜日特別開室

「学校における性教育振興のための事業」の一環として、資料室を公開していますが、現在は、平日のみです。学校で性教育の中心的役割を担っている教諭や養護教諭、学校と連携して性教育を実施している保健師・助産師、将来それらを目指している学生などが利用しにくい状況にあります。遠方に在住の皆さんからも、休日の資料室の開室を求める声が寄せられています。

ご要望に應えるため、平成26年度は、試行的に下記の日程で資料室を開室いたします。

・開室の月日 4月27日（日）、7月27日（日）、10月26日（日）、平成27年1月25日（日）

・開室の時間 10：30～17：30（利用日3日前の17：30までに予約があった場合、利用者の希望時間帯のみ開室）